

## 2012年3月期第1四半期業績に関する主なQ&A

2011.8.4.

Q. 震災影響は予想を下回り、かつ事業は堅調にもかかわらず、業績予想を上方修正しないのは何故か？

A. 未だ年度の初めであり、慎重に見ています。これまでは事業状況は想定通りですが、世界経済、特に欧州北米などの見通しなどにも不透明なところがあり、今は慎重な姿勢を維持しています。

Q. 持分法適用会社（ロシア、中国、セブラセ（ブラジル））の状況について

A. セブラセは前年同期も今四半期同様フル稼働に近かったため前年対比ほぼ横ばいでした。来年度は増設により向上します。ロシアは、堅調に成長しています。中国のJVは、中国政府の景気・金融引き締め策により減速が見られましたが、中期的な見通しとしては、市場拡大が期待できるので、懸念はありません。

Q. 営業利益差異分析について、事業・地域の簡単な分解をお願いします。

A. 「販売数量/構成」の33億円のプラスについては、全事業についてプラスです。半分弱がBPで、AutoはBPよりやや少なく、残りが機能性ガラスでこれも若干のプラスでした。「震災影響」の34億円マイナスについては、27億円がAUTO、7億円が機能性ガラスです。「販売価格」の15億円プラスについては、8割がBP、2割がAUTO、機能性ガラスは横ばいです。特に大きかったのは、欧州BPと南米のBPであり、北米の自動車補修用(AGR)でも改善しました。「投入コスト」の26億円マイナスについては、2/3がBP、1/3がAUTOです。

Q. 欧州BPの値上げ状況について

A. 国によって違いますが、一例として、ドイツの汎用品指標で示すと、前年同期対比で25%の値上がりとなっています。

Q. ソーラー事業の状況、下期の見方はどうなっていますか？

A. これまでのところ25%の成長です。今後もSMPの想定に沿って成長してゆくと思います。

以 上